



はっち流 騎馬打毬



アーティスト・プロフィール

KOSUGE1-16

KOSUGE1-16 は 2001 年から活動する車田智志乃、土谷享の二人組のアーティストユニット。日常のありふれた環境や、現象、人のつながりから作品を生み出している。作品を仲立ちにして、鑑賞者が参加者になり、参加者同士、あるいは作品と参加者の間に「もちつもたれつ」という関係性を創り出す。身近な場所で、アートが生活を豊かにするという実感を、多くの人たちと共有している。「どこどこ！巨大紙相撲」は全国教育関係者に引き継がれている。

2012 年八戸三社大祭をリサーチし、8月2日に行われる加賀美流騎馬打毬に着目。さらに中学校ロボコンが八戸市発祥であることから、中学校のロボコン指導者や、八戸工業大学でロボット工学の先生に呼びかけ、それらをクロスさせながら市民参加の場を創り出した。

大澤未来

映像作家、映画監督。民俗学、人類学をベースに「生き物、自然、宗教と人間との関係性」に注目した作品を発表している。映しだされる映像と音の中から、人間中心の見方を広げて世界を実感できる作品を生み出している。KOSUGE1-16 の誘いで、プロジェクトに参加。八戸三社大祭の際の神事として行われる加賀美流騎馬打毬に登場する馬たちを育てる人々と馬の日常的なコミュニケーションや、八戸市南郷地区の馬と人との営みに注目したドキュメンタリー「馬と人間」と3面インスタレーション映像作品を発表。

2012. 5 月～8 月リサーチ



日本で3カ所しか継承されていない伝統武芸

×

古来からの馬事文化／馬と人の暮らし

×

中学校ロボコン／ロボット工学

×

KOSUGE1-16

はっち流騎馬打毬

8月2日に長者山新羅神社で行われる加賀美流騎馬打毬。日本で3箇所しか行われていない伝統武芸だが、赤組と白組に分かれて毬を奪い合う実践的な騎馬打毬は八戸だけでしか行われていない。きわめて貴重な武芸である。

リサーチで、これを支えているのは、平野直さんが運営するPOLOライディングクラブである。平野さんたちのご努力下、年間の馬の世話が行われ、平野さんご一家とここに集う若者たちが毎年稽古を重ねて、年に一度の伝統行事が継承されていることがわかった。また、「八戸」は古くからの馬産地であり、馬と人との関係がきわめて深い場所であることもわかった。また、騎馬打毬そのもののおもしろさも発見。翌年 KOSUGE1-16 プロデュースの騎馬打毬ツアーを開催、このツアーははっちによって引き継がれた。

この騎馬打毬をロボットで行えないかという KOSUGE1-16 のアイデアから、中学校ロボコンが八戸市の中学校教諭下山大先生が創始者であることが判明。さっそく下山教諭を訪ね、中学校ロボコンの精神やメカニズムについてご教示をいただき、ご協力をいただくことにした。また、センサーで動くロボットについては、八戸工業大学の山口広行先生にご協力いただくことになった。



はっち流騎馬打毬の概要

● 騎馬打毬をロボコンで再現

3人1組でチームを作り、騎馬打毬ロボットを組み立て、ロボット自体も着色・装飾しカスタマイズする。操作は3人で行い、馬の右脚と左脚を手回しモーターでそれぞれを2人で動かし、3人目が毬杖を操作して毬をゴールに入れる。操作するには3人の息を合わせることが必要とされ、ロボット操作はきわめてフィジカルな体験となる。また、ロボット制作は5階の共同スタジオで行っていただき、毎日の部活動のようにはっちに通っていただきながら、ロボットを完成させていく。

● トーナメント大会の開催

はっちの3周年にあたる2月11日に、はっちでトーナメント大会を開催。開催に当たっては、商店街から協賛を募り賞品などを集めて、中心街あげての大会とする。ご協賛いただいたお店や会社の名前は、はっち広場に貼り出す。

● 八戸地域の馬事文化を映画で記録

映画監督の大澤未来氏が、POLO ライディングクラブや南郷地区の馬を飼う農家を訪れ、ドキュメンタリー映像を撮影。「馬と人間」と題した作品の上映会を行う。

〔募集フライヤー〕

うま ひと 馬+人のロボットを作って みんなで試合にでよう！ こどももおとなも みんなであそぼう き ば だきゅう 騎馬打毬 × ロボコン！ さんかしやだいほしゅう 参加者大募集！

2012年2月11日、はっちがロボット対決で熱くなる！
いま日本で八戸だけに残る、馬と人が一緒になって戦う伝統のスポーツ「加賀美流騎馬打毬（かがみりゅうきばだきゅう）」と、全国的に有名な八戸のロボコン（ロボットコンテスト）が合体！馬+人型のロボットが対決する大会をはっちで開催します！

クラスの友達、部活の友達、家族、親戚、町内会、スポーツ少年団、仕事場の仲間などなど…3人以上のチームでご参加いただければどなたでも参加OK！

いままで誰もやったことのない「八戸が（たぶん）世界ではじめて！」のロボット大会。さあさあ！みんなで集まって楽しいゲームを作りましょう！

もちろん初心者・機械オンチの方も大歓迎です！



KOSUGE1-16 presents

き ば だきゅう はっち流騎馬打毬



八戸ポータルミュージアム はっち

〒031-0032 青森県八戸市三日町 11-1 TEL 0178-22-8228 FAX 0178-22-8808 URL <http://hacchi.jp>

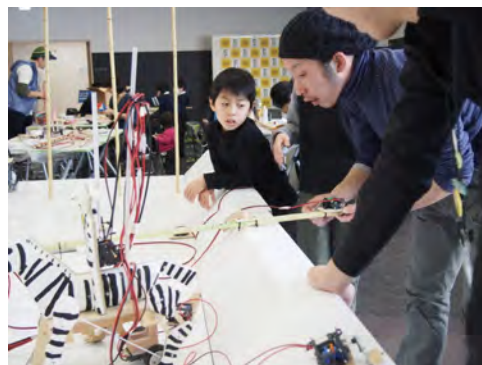
主催：八戸市「八戸ポータルミュージアムはっち」

協力：八戸騎馬打毬会・長者山新羅神社・八戸工業大学・コミュニティ放送局 BeFM 後援：八戸市教育委員会

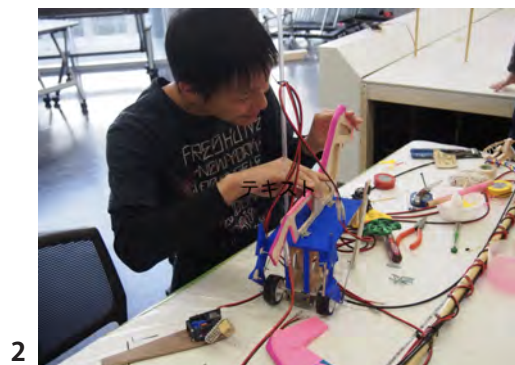




1



5



2



6



3



7



4



8



はっち流騎馬打毬ロボットの製作

各チーム毎に参加申込をし、上の写真のパーツを組み立てて、自分たちのチームのロボットを製作した。それぞれのチーム名などにちなんだカラーリングや装飾を各々自由に施した。

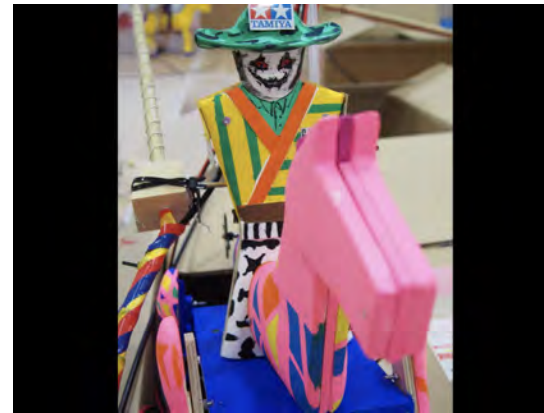
共同スタジオに競技台を設け、ここで動かしてみながら、ロボットの微調整を行うと共に3人一体となって操作を練習した。

小学生のチーム、中学生のチーム、社会人チームなど、多様な市民が連日集まり、共同スタジオは寝付きに包まれた。市内のホテルチェーンの支配人たちがチームを作ったり、加賀美流騎馬打毬の機種を務める若者たちも参加したり、若い女性たちだけのチームもあった。世代や立場を超えた市民のチームが、対等に製作し工夫し練習し、トーナメント戦に臨んだ。

- 1 毎日5階共同スタジオはたくさんの市民でにぎわった。
- 2 加賀美流騎馬打毬チームの前田くんもロボット作り
- 3 それぞれこだわりのカラーリング
- 4 中学校ロボコンの生みの親下山先生も度々現れ、熱い指導をいただいた。
- 5 実際に動かしてみるといろいろな不具合が…。根気強く調整が続く。
- 6 操作はチームワークが命。3人一体になれば馬も人も動かない。
- 7 ウルトラマンのような騎手を作ったのは下山先生。
- 8 動かしてみると意外とむずかしい操作に、なおのこと情熱が増幅する。



ホテル支配人たちのロボットと
試合風景。小学生相手に真剣勝
負！八戸のまちになじみ、まち
づくりに参加したいと参加して
くれた。



個性豊かな騎馬打毬ロボットた
ち。中には、八戸ならではの魚
介の殻を貼りつけたロボットも
登場！



はっちの清掃員さんも、休憩時
間にロボットを動かしてみる。
「動いた！動いた！」

八戸工業大学の山口先生と
研究室のみなさんが製作し
た「毬童子」ロボット。
試合の前の儀式でかわいら
しい姿を見せてくれた。
点数が入る度に鐘を鳴らす
のもこのロボットだった。



「馬と人間」上映会

映画監督の大澤未来氏が、POLO ライディングクラブや南郷地区の馬を飼う農家で、密着撮影しドキュメンタリー作品を製作した。馬と暮らす老人が、野菜を切り煮て食べさせ、馬を運動させる時間の経過の丁寧な描写や、厩舎での馬の息遣いに、馬と人間との間に流れるあたたかな無言の交流を感じさせた。

また、騎馬打毬に向かう馬運車に大澤氏が同乗して撮影。晴れの舞台の前の馬たちの姿も描かれる。現代の八戸で見えにくくなっている人と馬の営みが可視化された。



「馬と人間」上映会会場にて

3面投影のインスタレーションの会場で。
左から KOSUGE1-16 土谷享氏、大澤未来氏、アシスタントのヒグチアキオ氏、
はっちコーディネーター渡邊曜平、KOSUGE1-16 車田智志乃氏、はっち文化
事業ディレクター吉川由美（子どもたちは土谷氏の長男長女）

はっち流騎馬打毬トーナメント大会概要

日時：平成 25 年 2 月 11 日（月・祝） 9 時～ 16 時

場所：はっち 1 階 はっちひろば

- 9：00 開館（からくり時計歯打ち）
- ・はっち開館 2 周年のアナウンス（BeFM 小泉さん）
 - ・ハッピーバースデー合唱（その場の全員で）
 - ・からくり時計の歯打ち停止
- 9：10 オープニングセレモニー
- ・開会（選手全員ひろばに集合）
 - ・市長挨拶
 - ・大会趣旨説明（風張館長）
 - ・KOSUGE1-16 紹介（土谷さんコメント）
 - ・協力者紹介（司会者から、騎馬打毬会・ロボコンの先生方を紹介）
 - ・来賓紹介（協賛店の方がどなたか来場していれば、司会者から紹介）
 - ・ルール説明（下山先生）
 - ・デモンストレーション（下山先生）※この間に予選準備
- 9：45 予選（リーグ戦）開始
- ・はっちひろばとシアター 1 の 2 会場で開催
 - ・4 チームで 1 リーグを構成し、全部で 5 リーグ実施。
 - ・1 試合 3 分とし、リーグ内得失点差の一番大きいペアが決勝進出、同点はくじ引きする。
- 11：30 予選（リーグ戦）終了
- ・敗者復活チームは、敗退チームでくじ引きして決定する。
 - ・得失点差が一番大きいペアと二番目のペアはシード枠に入り、その他はくじ引きして組み合わせを決定する。
- 11：40 来場者による投票
- ・予選敗退した 8 チームがロボットを持って整列、デザイン性・チームワーク・戦術の 3 つの観点で、来場者から予選敗退チームの前に掲示しているボードにシールを貼ってもらう。
 - ・この時点で 3 チームを特別賞に選出
- 11：50 決勝トーナメント戦組み合わせ発表
- 12：00 休憩（歯打ち）
- 13：00 決勝トーナメント戦セレモニー（歯打ち）
- ・決勝トーナメント進出チーム入場（司会者から 1 チームずつ紹介、12 チーム）
 - ・大会趣旨説明（館長）
 - ・KOSUGE1-16 紹介（土谷さんコメント）
 - ・ゲストコメンテーター紹介（司会者からゲスト紹介）
 - ・協力者紹介（司会者から、騎馬打毬会・ロボコンの先生方を紹介）



1



4



2



5



3



6

1 世代を超えての真剣勝負は続く。

2 KOSUGE1-16 の土谷さんも段ボールかみしもの衣装で会場を盛り上げる。

3 ギャルたちのチームもおしゃれロボットで参加。

4 小学生がおとなを打ち負かすシーンが何度も展開された。

5 段ボールかみしものを着た下山先生の審判と実況が決勝リーグを盛り上げた。

6 本物の騎馬打毬の毬門（ゴール）を模したはっち流騎馬打毬のゴールから見た参加ロボットの整列。

- ・来賓紹介（柳川宮司や協賛店の方どなたか来場していれば、司会者から紹介）
- ・予選リーグ講評（下山先生、土谷さん、平野さん）
- ・決勝トーナメント戦ルール説明（下山先生）
- ・からくり時計の歯打ち停止

13:30 決勝トーナメント戦開始

- ・1試合5分とし、得点の多いペアが勝ち上がっていく。
- ・予選敗退チームの8チームの選手は、試合毎に懸賞幕を持って歩く係を担当する。
- ・決勝戦前に3位決定戦を行う。
- ・3位決定戦後、4位以下の6チームがロボットを持って整列、デザイン性・チームワークの2つの観点で、来場者から予選敗退チームの前に掲示しているボードにシールを貼ってもらう。
- ・この時点で2チームを特別賞に選出

15:00 決勝トーナメント戦終了

- ・ゲストから、この時点で入賞していない4チームを選定し、特別賞を決定していただく。

15:30 表彰式

- ・大会結果発表
- ・講評（下山先生）
- ・表彰（優勝、準優勝、3位は市長名で市長から表彰・コメント。特別賞は館長名で表彰し、ゲストが選定したものは、ゲストからコメントしていただく。）
- ・八戸騎馬打毬会講評（山内会長からコメント）
- ・KOSUGE1-16 講評（土谷さんからコメント）

16:00 優勝パレード

- ・優勝ペアが表通りをロボットを持って歩道を練り歩く。

16:30 交流会



表彰式では、会場が割れんばかりの拍手に包まれた。



中心街のお店や会社がこの大会に賞品などを提供してくれた。



白熱した試合に釘付けのKOSUGE1-16の土谷氏と車田氏。



応援団も楽しみながら、会場を盛り上げた。

はっち流騎馬打毬トーナメント大会

主催 八戸市
〔八戸ポータルミュージアム はっち〕

共催 八戸騎馬打毬会
八戸中学校ロボコン

後援 八戸市教育委員会
八戸商工会議所
(社) 八戸観光コンベンション協会
八戸中心商店街連絡協議会
(株) デーリー東北新聞社
(株) 東奥日報社協力
コミュニティ放送局 BeFM

協力 長者山新羅神社
POLO ライディングクラブ
八戸工業大学

はっち流騎馬打毬ロボット制作協力
八戸中学校ロボコン
下山大 (八戸東中学校)
広住仁 (是川中学校)

はっち流騎馬打毬ロボット
大会運営システム構築
山口広行+研究室学生
(八戸工業大学)



はっち流騎馬打毬の会場は、出場者や応援団、大会のポスターを貼ったり賞品を協賛してくれた中心街のお店や企業のみなさんで埋め尽くされた。市長さんや議員さんも一緒になって、熱い戦いに声援を送っていた。

ロボットを完成させるまでの間も、多様な市民の交流が展開されたが、トーナメント大会の日には、さらに多くの市民が集まり、そこに共感の輪が広がった。

「こういう場を待っていたんだよ！」と地元企業の社長さんが興奮と感動の面持ちで語ってくれた。

「はっち流騎馬打毬」は、たくさんの発見をもたらした。まずは貴重な古武芸の価値と、それを支えてきた八戸地域の馬事文化の存在である。また、それが危機に瀕していることをも市民に教えてくれた。ロボコンの楽しさと奥深さも広く市民に伝わった。そして、創作を介したコミュニケーションが、世代や立場のバリアを飛び越えてフラットな交流の場を実現し、そこでは人々が生きる力を獲得できることをも体感させてくれた。

このプロジェクトを機に、加賀美流騎馬打毬ツアーや、地域資源をテーマにしたロボコン大会がはっちを舞台に継続して行われるようになった。

KOSUGE1-16 ならではの、継続的な営みをレガシーとした、市民参加のすばらしいプロジェクトとなった。

